

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500687		
法人名	株式会社 日本医療事務センター		
事業所名	グループホーム きらめいと土気		
所在地	千葉県千葉市緑区土気町446-6		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	平成23年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お一人おひとりの思いやる‘心’」「その方の今を優しく見つめる‘心’」「人は全て‘心’と考える」を理念に掲げ、ご入居者皆様が日々笑顔で楽しく生活して頂けるケアを努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

6年前に設立されたホームは周辺を山林と畑が囲む里山地域で、自然に恵まれているが、住宅地ではない立地環境から地域交流が難しい面がある。しかし、入居者が数年前から飼いはじめた犬の散歩に出るようになって、近隣住民から声がかかるようになってきており、少しずつ前進している。また、以前から通っていた趣味のサークルに参加したり、馴染みの店に買い物に行き、コーヒーを飲んでくる等、個別の外出支援に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「心」。思いやる心、優しく見つめる心、人は全て心であるという介護方針を掲げ、理解し生活に活かせるよう取り組んでいる。職員へ周知徹底するよう毎月行っている運営会議で確認しあっている。	「心」という理念は事業所内に掲示し、職員に自覚を促している。また毎月の全体会議でも繰り返し確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受入れを行っている。自治会規則の変更に伴い、会社や施設の加入が出来ないので、新たな交流の場を模索中。日課としている犬の散歩を通して、近隣の方々との交流を深めている。	数年前から犬を飼っており、入居者が交代で犬の散歩に出ているのを見て、近隣の人から声がかかるようになった。また自宅できた農作物を届けてくれる人もいる。	少しずつ前に進んではいるが、地域交流はまだ課題である。今後、地元に住む職員を通じて、小学校や保育所とも交流していきたいと考えているので、実現が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の体制確立を優先させてしまい、現状は取り組めていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、家族来訪時にご意見・要望を聞き、所内会議等で話し合い、ご入居者様により良い生活をして頂ける様サービス向上に取り組んでいる。	市の介護相談員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族会代表等が参加して実施している。課題である地域交流なども議題として活発な意見交換が行われている。ホームはこの会議を、家族の声を聴く有効な場と捉えており、来年度は家族会全員に出席を呼びかける意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所に直接行くことは少ないが、解らないことに関しては担当者に連絡しアポイント取りをしている。グループホーム連絡会等を通して話し合う機会を作っている。	市の高齢施設課とは必要に応じて電話やメールで連絡を取っている。市のグループホーム連絡会に参加しており、連絡会の会議で市職員から情報を得る機会もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、事業所内研修を通じて職員に意識付けをし、身体拘束をしないよう努めている。法人としてマニュアルがあり、日々の介護の中で、意識し実践している。	身体拘束ゼロに向けて、職員にも意識が根付いている。ドアの施錠もせず、帰宅願望のある人には声掛けで対応しているが、出ていく人がいれば、後からついていくようにしている。また、ユニット間も自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加している。研修を受けた職員が中心となり、所内で勉強会を行いほうしに努めている。		

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に周知出来ていないため、制度について職員全員が理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、確認を行い分かりやすい様に説明している。退居時は、ご家族と話し合い、納得頂いた上で手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、ご家族も来訪されており、近況報告をし、その際ご家族からの意見も聞いており、意見・要望は運営に活かせる様努力している。千葉市介護相談員も月1回2名来訪され、運営上行かせる様努めている。行政で行っている相談員意見交換会等にも積極的に参加している。	家族の訪問が多く、家族会も結成されており、意見や要望を聞く機会がしばしばある。今年度は、家族と一緒に参加するイベントも年5回実施した。出された意見については、できる限り反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やミーティングを定期的に行い、意見や提案を聞く機会を設け事業所内で検討し、本社へ挙げている。	年2回、個人面談を行っている。職員間のコミュニケーションも良く、管理者等にも意見が言いやすい環境が構築されており、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社研修、所内研修等環境作りをし、スキルアップを目指すよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当者を中心に職員で構成し、毎月所内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内交換研修を主任が中心として系列事業所を訪問し、互いのサービスの質を向上させる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者に対しては気を配り、日々安心して生活して頂ける様声掛けし、不安・要望には耳を傾け、信頼関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通して、ご家族の困っていること・不安な事等聴いている。 来訪時、話をする機械を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居をして頂き、ご本人様が環境に馴染み生活が送れるかを見極め、施設等紹介するなどの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が安心して楽しく暮らせるようご家族と協力し合っている。家族の一員とした考えを持ち、ご本人様を支えられる様な関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が毎週ウクレレ演奏をし、ご入居者様と歌を楽しんでおり、より良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、入居前から行っていた趣味サークルを継続している。ご親族や知人、以前の料理教室のお仲間が時々遊びにくる。	以前から通っていた趣味のサークルに参加したり、馴染みの店に買い物に行き、コーヒーを飲んで帰ってくる人もいる。また、お正月を自宅で過ごしたり、家族や友人が来訪し、居室で談笑したりと、さまざまな面で関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段生活する中で、お互いに意識を持って貰える様な関わりを支援している。ご入居者様が入院したとき等、職員同行の下お見舞いに行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の関係はほとんどないが、必要に応じてご本人様(他施設)を訪問したり、入院時のお見舞いには行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者一人一人の生活歴を考慮し、希望に沿ったケアが出来る様努めている。また、ユニット内でカンファレンスを行い、全体で適切なケアが出来る様心がけている。	一人ひとりに寄り添ってコミュニケーションを取る中で、表情やアクションから把握するように努めている。新しい入居者がいる場合、その人に関わる時間が多くなる中で、職員は寂しい思いをしている入居者の気持ちも感じ取って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を理解し、ユニット全体でケア出来る様努めている。また、入居後も新たな気づきがあれば申し送りをし、ユニットで共有できる体制を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務の中で、ご入居者様に変化があれば申し送りノート・生活記録を使用し、すぐにユニット全体が現状を把握出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の希望を踏まえカンファレンスにより意見を出し合い、ご入居者様一人一人に適した介護計画を作成出来る様に努めている。	入居者本人、家族の希望をもとに、カンファレンスで意見交換し、職員の気づきを入れて、計画を作成している。また、状態に変化があれば、対応するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議時にカンファレンスを行い、また、申し送りノートを使用し、変化があればすぐにユニット内で共有出来る様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの現状を把握し、ご家族・ご本人様とも相談し、ニーズに対応したケアが出来る様心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方や家族会の協力もあり、ご入居者様が楽しく過ごせる様に努めている。今後、さらに機会を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の体調やご家族との相談により、受診と在宅診療所の医師による往診をして頂き、適切な医療を受けられる支援をしている。	医療連携加算を取っており、適切な医療を受けられる体制がある。ホームの提携医の他、かかりつけの眼科、耳鼻科などには職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来訪し、体調の相談・アドバイスをして頂き、ご入居者様一人一人が適切な看護を受けられる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様の体調変化に応じ、受診や医師の指示を仰げる環境を築いている。また、介護要約を作成し、迅速に情報交換できる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族様と何度も話し合いの場を設け、在宅診療所の医師と連携を図りターミナルケアが出来る体制を築いている。また、所内研修にてターミナルケアについて勉強し、ユニット全体でケア出来る様努めている。	ホームとして看取りを行う方針であり、経験もある。在宅診療所や訪問看護ステーションとも連携し、その都度、家族とも話し合いをしながら支援をしている。職員の意識も高い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回所内研修にて緊急時の対応訓練を行っているが、十分とは言えない。今後、勉強会等の機会を増やし、さらに実践力を身に付ける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回避難訓練を行い、災害時に冷静に対応出来る様努めている。また、緊急連絡網を作成し、災害時にじんそくに対応出来る様努めている。地域との協力体制は十分とは言えず、今後の課題としたい。	マニュアルが整備され、夜間を想定しての訓練も実施している。	先日の地震のこともあり、あらゆる場面を想定した訓練の実施が期待される。また、地域の協力体制をどのように構築していくか考えていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の性格や生活歴を考慮した言葉掛けやコミュニケーションをとる様努めている。また、排泄介助時等もご本人様の自尊心を傷付けない様配慮している。	トイレ誘導や介助ひとつにしても、その人のプライドに配慮した対応を心がけている。職員の入居者に対する接し方も節度があり、好感が持てる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユニット全体で、ご入居者様と信頼関係を築き、思いや希望を表し易い環境作りに努めているが、まだ十分とはいえない。今後、より自己決定出来る様な環境作りをしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人希望に沿って生活出来る様心がけてはいるが、買物等の外出支援に関しては十分に対応しきれていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で衣服を選べる方はご本人様の意向に沿って支援している。ご自分で選べない方に関しては、職員が色合い等を考慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けに関しては、ご入居者様のADL等の関係もあり、一緒に行う事は十分に出来ていない。食事の際は、職員も一緒に楽しく食事が出来る様努めている。	食材は取り寄せているが、配膳等、できる場所は入居者に参加してもらっている。また、何かイベントがあるときは入居者と一緒に買い物に行ったり、外食をすることもある。職員も一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様の体調等を考慮し、1日を通して十分に食事量・水分量を確保出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアが出来るご入居者様は声掛けによりご自身で行って頂く様支援している。介助が必要な方や拒否等のある方に関しては、その際のご本人様の状況を考慮し、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを考慮したトイレ誘導を行っている。また、カンファレンス等で話し合い、オムツの使用を減らせる様努めている。	排泄チェック表に基づきパターンを把握している。定時の声かけや、様子を見てこまめに誘導することで、自立支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示の下、ご入居者様に合わせた下剤調整や、日中常多目に水分補給をして頂く等便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、週に2回以上入浴できる様に支援している。また、ご入居者様の希望があれば、ご希望に沿って入浴出来る様に努めているが、個々に添った入浴支援は十分にはできていない。	毎日入浴したいという人には対応するようにしている。また、入浴拒否の場合は人を変え、声かけの方法を変え、工夫して入ってもらえるよう支援している。ゆず湯や入浴剤で気分を変えることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご入居者様の疲労を考慮し、臨機応変に休息していただける様支援している。夜間は、室温など気持ちよく眠って頂ける様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用等を理解するために薬に関する書類を個人ファイルに綴じ、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味や特性に合わせたレク等を行い気分転換に努めている。また、飲酒や喫煙等の嗜好品にも柔軟に対応出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1,2回外出支援を行っているが、ご入居者様の希望に沿っての支援は十分に出来ていない。 今後、より協力体制を構築し、外出支援を出来る様努めていきたい。	飼い犬の散歩や、買い物、外食、美容室や趣味のサークルに通う等、日常的に外出している。車イスを利用する人も出かける機会を持てるよう、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様の希望に合わせて、迅速にお金を使用出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望される際、ご自分でお話して頂けるよう支援し、お手紙・年賀状等投函依頼の支援は出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、その季節に合わせて手作りの掲示物を飾り、季節感を感じて頂ける様工夫している。また、室温や各の色合い等も考慮し、居心地良く過ごして頂ける様に努めている。	玄関にも食卓にも季節の花が飾られ、窓の外には自然が広がっている居心地のよい共用空間である。温度や明るさも適切で、エアコンの風が直接入居者に当たらないようにカフェカーテンで遮っているが、これはまた、部屋のアクセントにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席等気の合ったご入居者様同士で楽しく過ごして頂ける様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室・和室等、ご家族様とも相談し、ご本人様の好みに合わせて選べるように工夫している。 また、使い慣れた家具等を持参して頂き、安心して暮らせる様に支援している。	畳の部屋で布団を使い、文机を置いてある居室、フローリングの洋室にじゅうたんを敷いてある居室等、それぞれが居心地よく過ごせるような環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等各所への手摺りの設置や、障害物を置かないように配慮し、安全に生活できるように心がけている。		